しんらん同人

No.594
9・10月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828 【ホームページ】http://www.seiganji-tokyo.jp/

法座のご案内

婦人会 物故者追悼法要

【日時】
9月13日(日) 10:00～

【場所】
誓願寺

【講師】
平田聖子師



彼岸会

【日時】
9月27日(日) 13:00～

【場所】
誓願寺

【講師】
古賀明徳副住職



※ 9月・10月のその他の予定については最終ページ「ご法座等のご案内」をご確認ください。

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職　古賀尚之

「彼岸」とは「到彼岸」のことで、インドの言葉パーラミター（波羅蜜）を音訳したものです。

彼岸とは、向こう側の岸・迷いや苦しみのない阿弥陀如来の浄土です。そこには何の苦しみも憂いもありません。真宗のご門徒はお念仏を喜び、彼岸の浄土に参りたいと願います。

そのような願いを込めてお彼岸にはお墓参りをされます。しかし、お墓参りをしたらそれでこと足りるというわけではありません。何よりも大切なことは、今を生きている自分がお念仏を称え仏法を聞くことです。故人はすでに浄土往生を遂げているのですから、先祖のお墓参りはいわゆる先祖供養ではなく、往生された故人を偲び、お念仏して仏法に耳を傾ける大切な仏縁です。



後生の一大事

誓願寺初代住職
故 岡本泰雄

後生とは「後に来るべき生涯」ということで、未来世を指しています。仏教では、過去・現在・未来の三世を説き、未来世を後生といいます。

浄土教では、浄土往生を後生に期待するので常に後生の一大事といって浄土往生を大切にしています。蓮如上人は御文に「誰の人も早く後生の一大事を心にかけて・・・」とくりかえし述べられておられます。

「生あるものは必ず死なねばならない」ということは誰でも知っているが、何か問題にぶつからないと本当に死を感ずることがないようである。

重病にかかるとか、縁者の死にあうとか、その他色々な機会にそれを感ずるようだが、ある時期を過ぎるとまた忘れてしまう。

死を感ずるときには、できるだけそれから逃れたいと願い、どうしても逃れられないとなると、安心してゆける方法はないものかと考える。一般に若い時や元気な時には死を考えないが、体が弱ったり年老いてくると死を考えないわけにはいかない。

「どうすれば安心して死につくことができるか」という問題についての解答は様々であるようである。

「死は無に帰することである」と悟りすましている人もいるようだし。「死んだら灰になっておしまいだ」と悟ったように言う人もいる。「その時が来たら、そうなるしかない、考えたって仕方がない」と言う人もいる。大病をして死に直面した人が「あのままいってしまえば何もわからなくなっていたのだから、死は案外安らかです」と言ったとも聞きます。

死を安らかにする方法は色々あるのであろう。だが、仏法を聞けば三世がある。仮に人間界を安らかに終わったとしても、今まで作ってきた業を考える・つまり未来がどうなるかと考えると、それは解決がついているのではない。

念仏者は、後生について知っているのではない。ただ如来の仰せを信ずるばかりである。何もわからない者を、救わずばおかぬという如来の仰せを



頂いておるのである。如来の大悲におまかせしたからには、死後に、つまり後生に地獄があろうと少しも問題ではない。如来の願いは、迷える凡夫を必ず浄土に生まれしめたいという願いである。その願いを信ずるばかりである。

「往生ほどの一大事、凡夫の計ろうべきことにあらず」との、祖聖の仰せの通りで、浄土に生まれゆく一大事は如来のお計らいなのである。だから、念仏者は凡夫として死を悲しみ怖れもするが、死を超えて往生浄土の慶びがめぐまれている。

「いささか所労（病気）のこともあれば、死なんずるやと心細くおぼゆる（思う）ことも煩悩の所為（行わせること）なり。いままで流転せる苦悩の旧里（この世）は捨てがたく、未だ生まれざる安養の浄土は恋しからず候こといさ、いよいよ煩悩の興隆（はげしさ）に候にこそ、娑婆の縁尽きて力なくして（いたしかたなくして）終るとき、かの土（浄土）へは参るべきなり」とは、歎異抄にある親鸞聖人の仰せそのままが念仏者の領解であって、かの土、つまり浄土に必ず生まれる身にして頂いていることをよろこぶ者である。

後生の一大事は如来のお計らいによってのみ解決されるのである。

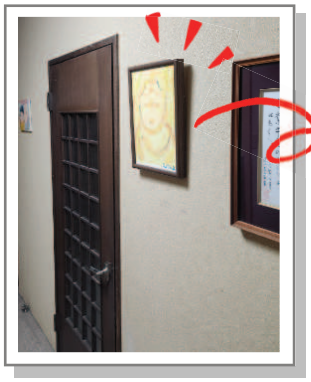
合掌

誓願寺スナップショット

誓願寺の1階玄関を入って右側の壁には大泉に住む孫が描いた仏さまの絵が飾ってあります。機会がありましたらぜひご覧ください。



【絵を描いている様子】



【玄関入って右の壁】



【仏さまの絵】

ご法座等のご案内

どなたでもご自由にご参加いただけます。
参加費は無料です。



9月

9・13（日）
■午前十時～
婦人会物故者追悼法要
【平田聖子師（愛知）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

9・20（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

9・27（日）
■午後一時～
彼岸会・祥月命日合同法要
【古賀明徳師（誓願寺副住職）】

10月

10・11（日）
■午前十時～
定例法座
【小柴隆幸師（東京）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

10・18（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

10・25（日）
■午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【小池秀章師（山口）】

編集後記

・全国でインフルエンザが流行しているようです。手洗いやマスク着用を励行しましょう。

・孫たちが学齢期に達しますと、親の日常が夏休み・新学期など学校のサイクルに左右されます。八月にお寺を賑やかにした九州や大泉の一家が「さようなら、またね」と帰り静寂が戻った誓願寺です。
ホッとする一方で、お正月には来るのかなと坊守に聞いて苦笑されている私がいます。

・家族会は、参加者が一人増えて十二人になりました。嬉しいことです。



〔家族勢揃いの食事会〕



〔お店の前での集合写真〕